

民生教育常任委員会行政視察報告書

栗 原 収

○愛知県犬山市

「学びの学校づくり」について

【所 見】

犬山市を訪問した日は、市長から辞任勧告を３年間受けていた教育長が定例教育委員会で退任を表明した日であり、大変あわただしい中で対応をいただいたが、複雑な思いでの視察となった。

犬山市は、教育実践の立場から学校を「共生」「協同」の場、また「学習指導要領」を指導の最低基準と位置づけ、「犬山の子は犬山で育てる」をスローガンに市独自の様々な取り組みを展開しており、特に「自ら学ぶ力」を重要な要素とし、子どもと教師の人間関係や幅広い人間性の育みを通じての学力形成（子どもの学びを保障）や子ども社会を大人社会での訓練の場と位置づけた様々な人との係りやそれぞれの立場から社会を築く力を身をもって学ばせることによる人格完成をも目指していた。

これら（子どもの人格形成と学力保障）を達成するため犬山市は教育改革として、少人数学級、少人数授業・ＴＴ、副読本の作成・活用、２学期制の導入、学びあいの授業づくりなどを「授業改善犬山プラン」とし、学校現場に多くの裁量を委ねた独自施策を展開し、全国の教育現場からの注目を集めていた。特に、一般会計（約２３０億円）の１０％の予算面でのバックアップにより、県費採用教員に加え平成２１年度は常勤講師６人、非常勤講師５０人を市単独で採用している。

これにより、学級を二つのグループに分けそれぞれに教師を配置する「少人数授業」、学級に２人以上の教師を配置する「ＴＴ」により子ども一人ひとりに目が行き届くきめ細かな授業が実施可能となっている。また、少人数学級は子どもの生活と学習が同一集団の中で行われているため、子ども同士や子どもと教師の関係がより深くなるなど質の高い条件整備がなされていたが、同一の非常勤講師を長期間安定確保する上での労働基準法上の規制等限られた予算の中で最大の効果を発揮するための課題もあった。

この他特別支援教育支援員の配置や学校運営に係る人的支援、地域と見えあう学びの学校づくり等先進的な事例もあったが、本市においても「史跡足利学校」のあるまちとして人づくりのための「足利市教育目標」

の具現化に向け様々な取り組みを行っている中で、今回の視察を踏まえ、たとえ新たな予算措置がなされなくても導入できるものは導入し、より質の高い学習環境を整備していきたい。



○愛知県大府市

「ウェルネスバレー基本計画」の取り組みについて

【所 見】

ウェルネスバレー計画とは、大府市と東浦町にまたがる「あいち健康の森」及びその周辺エリアに立地する国立長寿医療センターやあいち健康プラザ等、健康・医療・福祉・介護等に関する多数施設等を健康長寿の一大拠点（ウェルネスバレー）と位置づけ、関連産業の育成・創出情報発信、産業用地開発等を行うとともに地域ブランドの構築も目指すものであった。

ウェルネスバレーの広大な土地は、①健康長寿に関する産業の創出②ウェルネスな生活活動が実践できる住環境整備、③交流と賑わいづくりの推進、④コンソーシアムの構築、これら四つの施策のもと、愛知県設置の **あいち健康の森**（約 80ha）、医療福祉施設などの **医療福祉ゾーン**（約 10ha）、体験農園、福祉農園、食育農園などの **健康交流ゾーン**（約 28ha）、医療関連住宅地である **健康生活ゾーン**（約 46ha）、健康関連産業を誘致する **健康産業ゾーン**（約 87ha）の四つのゾーンに区分されている。

ウェルネスバレーには市有施設はなく市は都市計画道路及び河川整備を受け持ち、施設等は国や県等の事業を取り込んだいわばパラサイト的な行政展開と言える。また、当該区域内では「あいち健康の森」がもっとも整備されており他のゾーンは整備目標年次を平成 32 年としている。

本市では、医療・保健・福祉の総合拠点形成を競馬場跡地にて目指

しており医療福祉系高等教育機関整備等において、事業規模の違いこそあるが今回の視察結果を新たな視点から参考としていきたい。